

特任教授 **会田 薫子** AITA, Kaoruko

1. 略歴

| | |
|---------|--|
| 1984年3月 | 成蹊大学文学部英米文学科 卒業 |
| 1986年9月 | Contemporary British Society Course, School of Oriental and African Studies, University of London 入学 |
| 1987年6月 | 同修了 |
| 1988年4月 | Medical Tribune 翻訳者・報道部記者 |
| 1992年9月 | The Japan Times 報道部記者 |
| 1999年9月 | Medical Ethics Fellowship Program, Harvard Medical School, Harvard University 入学 (フルブライト留学) |
| 2000年6月 | 同修了 |
| 2003年4月 | 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程入学 |
| 2005年3月 | 同修了、修士号(保健学)取得 東京大学大学院医学系研究科) |
| 2005年4月 | 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士課程進学 |
| 2008年3月 | 同修了、博士号(保健学)取得 (東京大学大学院医学系研究科) |
| 2008年4月 | 東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOE「死生学の展開と組織化」特任研究員 |
| 2012年4月 | 東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣死生学・応用倫理講座 特任准教授 |
| 2017年4月 | 同 特任教授 |

2. 主な研究活動

a 専門分野

臨床倫理学、臨床死生学、医療社会学

b 研究課題

エンドオブライフ・ケアの改善

医療技術が進化するなか、超高齢社会となった現代の日本におけるエンドオブライフ・ケア（人生の最終段階における医療とケア）のあるべき姿を模索し、研究知見をうみだし、社会還元し、現状の改善・充実を目指す。

臨床倫理の研究・普及啓発

日本社会における家族関係や意思決定に関わるコミュニケーションのあり方などの社会的文化的な特徴および・制度と国・医学会のガイドライン等を踏まえ、臨床現場における一人ひとりの患者/利用者に関わる倫理的諸問題に対し、よりよく応答することが可能な方法論を探り、臨床現場の医療・介護従事者との協働・対話によって、現実の症例の倫理的問題について幅広く検討を深め、現場における実践の知へつなぐ。また、上記のエンドオブライフ・ケアの研究知見とともに、研究成果を国および各医学会の政策・ガイドラインに活かすことを見据え、医療現場との共同研究に取り組む。

臨床死生学の展開

死生学の重要な一領域である臨床死生学を、「一人ひとりが最期までより良く生きることを社会のなかで考える学問」と捉え、臨床現場における死生をめぐる諸課題の理解・考察を深め、一般への浸透を図る。

c 概要と自己評価

エンドオブライフ・ケアの改善について

上記の臨床倫理の理論と実践法を国内の医学会のガイドラインの策定に活かした。まず、日本腎臓学会理事長である柏原直樹氏（川崎医科大学副学長/腎臓・高血圧内科学教授）が研究代表者を務める国立研究開発法人日本医療開発機構（AMED）研究「長寿・障害総合研究事業 高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」において、会田は研究開発分担者として、本講座の臨床倫理の理論を活かした「高齢腎不全患者に対応する医療・ケア従事者のための意思決定支援ツール」の研究・開発に携わらせて頂いた。その研究成果である、「高齢腎不全患者に対応する医療・ケア従事者のための意思決定支援ツール」全4章を令和3（2020）年度に当講座ウェブサイトにて公開した。（<https://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/cleth/tool.html>）

また、AMED 柏原班の成果発信も含め令和2（2020）年度末に開催したシンポジウム「人生の最終段階と透析療法—緩和ケアとACPの役割」の登壇者の協力を得て、その概要を東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センターの紀要である『死生学・応用倫理研究 第27号』にまとめた。

AMED 柏原班の研究成果の集大成である『高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法 —conservative kidney management (CKM) の考え方と実践』は令和3年度末までにまとめ、令和4(2022)年6月に刊行された。会田はそのなかにおいて臨床倫理・意思決定支援および医療倫理と法に関する章の責任者・執筆者に指名された。老化が進行した高齢者の末期腎不全に透析療法を導入せず、緩和ケアを軸として保存的にケアしていく CKM は、西洋先進国においては過去10年間に進展が著しいが、国内での取り組みは緒に就いたばかりである。同『ガイド』は日本における初めての CKM 指針である。これは超高齢化が進展し、超高齢腎不全患者が激増する時代にあつて、高齢者に益となり、医学的・社会的に新たな時代の扉を開く研究知見となると期待されている。これは会田が長年取り組んでいる frailty 研究とも密接に関連している。

また、エンドオブライフの意思決定支援の方途である Advance Care Planning (ACP) についても、会田の研究知見は日本社会における政策医療へ導入された。これらの知見は異なる AMED 研究の課題「長寿・障害総合研究事業長寿科学研究開発事業「呼吸不全に対する在宅緩和医療の指針に関する研究」(研究代表者：国立長寿医療研究センター在宅医療・地域医療連携推進部長 三浦久幸氏)に活かされた。会田はこの研究においても研究開発分担者として携わり、「ACP 支援ツール」の研究開発を担当させて頂いた。同「ツール」も令和3年度末に当講座ウェブサイトにて公開した

(<https://www.lu-tokyo.ac.jp/dls/cleth/acp.html>)。ACP は人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援に関わる、臨床倫理的・臨床死生学的に重要な概念であるが、英語圏から輸入された概念と方法論を翻訳しただけでは日本社会における運用が困難であるため、日本の社会的文化的特徴を踏まえた形で再解釈し発信した。

さらに、10年余の研究課題の1つである frailty に関する研究知見の分析と発信にも務めた。カナダの Kenneth Rockwood 博士から許諾を得て Clinical Frailty Scale ver2 の和訳版を作成し、高齢者の人生の最終段階における過少医療および過剰医療への対策としての考え方を示した。frailty に関しては、国内の老年学関係者はフレイルという名称にておもに介護予防に注目しているが、会田は frailty が進行した高齢者における適切な医療のあり方について、医療関係者を対象とするセミナーや学術集会等で問題提起した。会田の講演を契機に、岡山大学医学部救急医学講座を中心として全国の救急医が参加し救急・集中治療の現場で実証研究を進め、論文にまとめた。また、上述の ACP のプロセスに frailty の評価を組み込むことの重要性に関して医療・介護従事者の理解を求める論文や講演活動も行い、これも臨床現場での実証研究につながっている。

臨床倫理の普及と啓発について

臨床倫理プロジェクトの事例検討法の枠組みとワークシートが定まったことから、研究活動のまとめとして、テキスト『臨床倫理の考え方と実践 —医療・ケアチームのための事例検討法』(東京大学出版会)の刊行のための仕事を進めた。また、コロナ禍で対面セミナーが実施困難となるなか、医療・ケア従事者の自習用および勤務施設内での小規模研修用に供するため、中核となる講義(「臨床倫理入門編」、「事例検討法」)の e-learning コンテンツを令和2年度に制作し、ウェブサイトにて公開した。臨床倫理オンライン・セミナーは、北陸地区および諏訪地区にて多職種用を実施し、また、日本医療ソーシャルワーカー協会との協働で、おもに MSW を対象とするセミナーも実施した。

臨床死生学の試みについて

当講座の《医療・介護従事者のための死生学》「基礎コース」において、セミナーの企画・運営と臨床死生学関連の講義を担当し、臨床現場で働く人たちが死生についてどのように理解し、どのようにケアに活かしていくかの研鑽を支援する活動を展開した。

また、年間に10回開催している「臨床死生学・倫理学研究会」を企画・運営し、この分野において研究・実践活動に取り組む研究者や実践家との意見交換の機会を医療・介護従事者と一般市民および学生・院生に広く提供した。コロナ禍を契機としてオンライン開催としたところ、同研究会への参加者が急増し、令和3年度には年間で延べ約4,000名が全国から参加し、臨床現場の実態を踏まえて死生の問題に関して議論した。今後も、現場で生きる臨床死生学の取り組みを継続し、社会のなかで活かす知の集積・活用を目指したい。

日本医学会「子宮移植倫理に関する検討委員会」への参画

ロキタンスキー症候群など先天性子宮欠損の女性に対する子宮移植術の臨床研究がスウェーデンをはじめいくつかの国々で開始されている。国内では慶応義塾大学医学部を中心とする研究グループが動物実験の知見を重ね、ヒトでの臨床研究の準備を進めているが、医学的な技術に残余の問題が多く、さらに、生命倫理と臨床倫理に関わる諸問題については国内では未検討であった。そのため、日本の約140の医学会のアンブレラ組織である日本医学会は令和元(2019)年度に検討会を組織し、これらの課題について議論を開始した。会田は生命倫理および臨床倫理に関する諸問題についての検討のため委員を委嘱された。同検討会議は令和3年度に報告を取りまとめ公表した。

会田は生殖補助医療技術としての子宮移植という手段について、その社会的意味に関する議論が必要と主張し、また、従来の移植医療とは大きく異なり、救命医療でも生命維持治療でもない子宮移植という新しい医療に関して、少なくとも生体ドナーの健康を害することのないように、まずは脳死ドナーを対象として臨床研究を開始し、手術手技を確立し

てから生体ドナーの協力を仰ぐべきと論じたが、検討委員会の多数派の最終見解は、最初から生体ドナーからの臓器摘出に道を開くものとなった。

一般社団法人 日本専門医機構への貢献

日本の専門医制度の設計を時代に合わせて更新する役目をもつ日本専門医機構の活動に関し会田は編集会議の議員を委嘱され、専門医を対象とする e-learning コンテンツ科目「医療倫理」全12本の企画を主幹させていただくこととなった。これは全国約40万人の医師のほとんどを占める、何らかの科の専門医を対象とするものである。

まず基本方針を「内科・外科のすべてを対象とし、医師の職業倫理である医療倫理を認識しつつ、各現場において一人一人の患者に関わる倫理的な問題を扱う臨床倫理を中核とする」とし、「専門医機構」編集委員会からの了承を得て、e-learning コンテンツの制作を開始した。コロナ禍のため一時制作を中断せざるを得ない状況となったが、令和3年度はコンテンツ制作を再開し、同年度末までに「医療倫理と臨床倫理」、「医療倫理と法」、「研究倫理上・下」のコンテンツの配信開始につなげた。

d 主要業績

(1) 著書

『臨床倫理の考え方と実践 —医療・ケアチームのための事例検討法』（清水哲郎、会田薫子、田代志門共編著）、東京大学出版会、2022.1

(2) 論文

会田薫子、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）が目指すもの —「事前指示」「医師の免責」という誤解」、『月刊保団連』、no.1321、4-10頁、2020.4

日本透析医学会「提言」作成委員会、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」、『透析医会誌』、Vol. 53, no.4、173-217頁、2020.4

Imai K, Morita T, Akechi T, Baba M, Yamaguchi T, Sumi H, Tashiro S, Aita K, et al.、「The Principles of Revised Clinical Guidelines about Palliative Sedation Therapy of the Japanese Society for Palliative Medicine」、『Journal of Palliative Medicine』、vol.23no.9、1184-1190頁、2020.9

会田薫子、日本老年医学会『「ACP推進に関する提言」の意義 —社会的文化的特徴を踏まえることの重要性』、『老年内科』、2、539-545頁、2020.10

Masafumi Kuzuya M, Aita K, Katayama Y, Katsuya T, Nishikawa M, Hirahara S, Miura H, Rakugi H, Akishita M.、「Japan Geriatrics Society "Recommendations for the Promotion of Advance Care Planning": End-of-Life Issues Subcommittee consensus statement」、『Geriatrics and Gerontology International』、vol.20, no.11、1024-1028頁、2020.11

会田薫子、「人生の物語りと advance care planning」、『日本在宅救急医学会誌』、vol.4,no.1、31-37頁、2020.12

Kuzuya M, Aita K, Katayama Y, Katsuya T, Nishikawa M, Hirahara S, Miura H, et al.、「The Japan Geriatrics Society consensus statement "recommendations for older persons to receive the best medical and long-term care during the COVID-19 outbreak-considering the timing of advance care planning implementation」、『Geriatrics and Gerontology International』、vol.20, no.12、1112-1119頁、2020.12

会田薫子、「日本老年医学会「ACP推進に関する提言」の意義」、『Aging & Health』、vol.29,no.4、6-9頁、2021.1

Hirakawa Y, Aita K, Nishikawa M, Arai H, Miura H.、「Facilitating AdvanceCare Planning for Patients with Severe COPD: A Qualitative Study of Experiences and Perceptions of Community Physicians, Nurses, and Allied Health Professionals.」、『Home Healthcare Now』、39(2)、81-90頁、2021.3

会田薫子、「『透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言』の意義 — 倫理的視点からの検討」、『臨床透析』、37(4)、pp.319-324、2021.4

会田薫子、「日本老年医学会『ACP推進に関する提言』の意義」、『臨床と研究』、98(4)、pp.486-491、2021.4

会田薫子、「非がん疾患のエンドオブライフ・ケアと臨床倫理のカンファレンス法 —よりよい意思決定支援のために」、『Geriatric Medicine』、59(6)、pp.571-574、2021.6

会田薫子、「医師による自殺ほう助 —現状と課題」、『精神医学』、63(7)、pp.1099-1108、2021.7

会田薫子、「エンドオブライフ・ケア —臨床倫理の事例検討法」、『日本腎不全看護学会誌』、23(2)、pp.58-66、2021.8

Hirakawa Y, Saif-Ur-Rahman KM, Aita K, et al.、「Implementation of advance care planning amid the COVID-19 crisis: A narrative review and synthesis.」、『Geriatrics and Gerontology International』、21(9)、779-787頁、2021.9

会田薫子、「変革期を迎えた高齢腎不全患者への意思決定支援」、『看護管理』、31(10)、908-918頁、2021.10

会田薫子、「認知症のエンドオブライフ・ケア —ACPのあり方」、『老年期認知症研究会誌』、23(10)、pp.58-62、2021.10

会田薫子、「神経変性疾患を有する高齢患者のエンドオブライフ・ケア」、『Geriatric Medicine』、59(12)、pp.1203-1206、2021.12

Hirakawa Y, Aita K, Nishikawa M, et al., 「Contemporary Issues and Practicalities in Completing Advance Care Planning for Patients With Severe COPD Living Alone: A Qualitative Study.」, 『Journal of Social Work in End-of-Life and Palliative Care』, 18(1), 80-95 頁, 2022.1

会田薫子, 「人生の最終段階と透析療法 —緩和ケアと ACP の役割」, 『死生学・応用倫理研究』, 27, pp.10-23, 2022.3

(3) 解説

会田薫子, 「ALS 患者囑託殺人事件から考えること」, 『PDN 通信』, 2020 年 10 月 30 日号, 1 頁, 2020.10

会田薫子, 「続・さあ始めよう、人生会議 —ACP (人生会議) 普及のための対談動画」, 『DVD』, 2021.5

会田薫子, 「Advance Care Planning の意義 —エンドオブライフの意思決定支援」, 『PDN 通信』, 77 号, p3, 2021.10

(4) 学会発表

国内、招聘講演、会田薫子, 「フレイルの知見を ACP に活かす —臨床倫理の視点から」, 第 25 回日本老年看護学会学術集会、誌上開催 (COVID-19 のため)、2020.6.21

国内、招聘講演、会田薫子, 「日本老年医学会「ACP 推進に関する提言」の趣旨と現状の課題」, 第 2 回日本在宅医療連合学会大会、WEB 開催、2020.6.28

国内、招聘講演、会田薫子, 「人生の最終段階を考える —食べられなくなったらどうしますか?」, 第 2 回日本在宅医療連合学会大会 市民公開講座、WEB 開催、2020.6.28

国内、招聘講演、会田薫子, 「クリティカルケア看護における倫理的ジレンマへの対応」, 第 16 回日本クリティカルケア看護学会学術集会、WEB 開催、2020.7.1

国内、会田薫子, 「高齢者における CPR の適正化 —ACP の役割」, 第 62 回日本老年医学会学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2020.8.5

国内、招聘講演、会田薫子, 「経口摂取が困難となった場合の対応 —人工的水分・栄養補給法のあり方」, 第 116 回日本精神神経学会学術集会、WEB 開催 (オンデマンド)、2020.9.28

国内、招聘講演、会田薫子, 「今だから問う、あなたの臨床倫理 —意思決定支援者としての役割発揮」, 第 51 回日本看護学会 —看護管理—WEB 学術集会、2020.11.1

国内、招聘講演、会田薫子, 「エンドオブライフ・ケア 病いをもった人々への明かりとなるもの — 臨床倫理的視点から」, 第 23 回日本腎不全看護学会学術集会、WEB 開催、2020.11.21

国内、招聘講演、会田薫子, 教育講演「心不全診療と ACP ~生物学的生命と人生の物語り~」, 第 25 回日本心不全学会学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2021

国内、招聘講演、会田薫子, 「エンドオブライフと性差 —倫理思想の観点から」, 第 14 回日本性差医学・医療学会学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2021.2.7

国内、招聘講演、会田薫子, 「医療倫理 —救急・集中治療の死生学」, 第 48 回日本集中治療医学会学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2021.2.14

国内、招聘講演、会田薫子, 「医療倫理と臨床倫理」, 第 48 回日本集中治療医学会学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2021.2.14

国内、招聘講演、会田薫子, 「延命医療と臨床現場 —professionalism のあり方」, 第 66 回日本透析医学会学術集会、横浜国際会議場/WEB (リアルタイム・オンデマンド) ハイブリッド開催、2021.6.5

国内、招聘講演、会田薫子, 「人生の最終段階における医療とケア」, 第 34 回老年期認知症研究会、都市センターホテル/WEB (リアルタイム) ハイブリッド開催、2021.6.5

国内、会田薫子, 「「新型コロナウイルス感染症流行期において高齢者が最善の医療・ケアを受けるための日本老年医学会からの提言 —ACP 実施のタイミングを考える」の意義」, 第 63 回日本老年医学会学術集会、2021.6.12

国内、招聘講演、会田薫子, 「医療倫理と研究倫理の最新知識~保存的腎臓療法 (CKM) の選択を題材に」, 第 64 回日本腎臓学会学術集会、パシフィコ横浜/WEB (リアルタイム・オンデマンド) ハイブリッド開催、2021.6.19

国内、招聘講演、会田薫子, 「医療倫理と臨床倫理」, 日本ペインクリニック学会第 55 回学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2021.7.24

国内、招聘講演、会田薫子, 「看護倫理を实践する —意思決定支援のあり方」, 日本地域看護学会第 24 回学術集会、2021.9.12

国内、招聘講演、会田薫子, 特別企画講演 1 「PEG と生命倫理:アドバンス・ケア・プランニングの意義 —エンドオブライフの意思決定支援」, 第 25 回 PEG・在宅医療学会学術集会、WEB 開催 (リアルタイム・オンデマンド)、2021.9.18

国内、招聘講演、会田薫子, 「With コロナ時代の ACP と倫理」, 日本 ACP 研究会第 6 回年次大会、WEB 開催 (リアルタイム)、2021.9.26

国内、招聘講演、会田薫子、「手術看護における倫理」、第35回日本手術看護学会年次大会、WEB開催（オンデマンド）、2021.10.16

国内、招聘講演、会田薫子、「認知症のエンドオブライフ・ケア —ACPのあり方」、第23回近畿老年期認知症研究会、WEB開催、2021.10.23

国内、招聘講演、会田薫子、「死生学の課題と展望」、日本医学会「未来への提言」作成委員会、WEB開催（リアルタイム）、2021.10.27

国内、招聘講演、会田薫子、「脳死の二重基準の意味」、第16回日本移植・再生医療学会学術集会、WEB開催（リアルタイム・オンデマンド）、2021.10.30

国内、招聘講演、会田薫子、「ACP —人生の最終段階における意思決定支援」、日本がん看護学会 SIG ホスピスケア研修会、WEB開催（リアルタイム）、2021.11.13

国内、招聘講演、会田薫子、「ACP（人生会議）—エンドオブライフ・ケアの意思決定支援」、第53回高知県リハビリテーション研究大会、WEB開催（リアルタイム）、2021.11.14

国内、指定講演、会田薫子、専門医共通講習1「救急・集中治療の死生学 —脳死をめぐる臨床倫理」、第49回日本救急医学会学術集会、WEB開催（オンデマンド）、2021.11.21

国内、招聘講演、会田薫子、「エンドオブライフ・ケア —透析療法の見合わせと終了」、第58回三重県透析研究会学術集会、WEB開催（リアルタイム・オンデマンド）、2022.2.20

国内、招聘講演、会田薫子、「在宅医療におけるACPの考え方と実践」、第58回日本腹部救急医学会学術集会、京王プラザホテル（東京）、2022.3.25

(5) 監修

会田薫子、『看護職の倫理綱領』、公益社団法人 日本看護協会、2021.3

(6) 会議主催（チェア他）

国内、「医療・介護従事者のための死生学セミナー」、実行委員長、WEBセミナー、2020.9.27

国内、「人生の最終段階と透析療法 —緩和ケアとACPの役割」シンポジウム、主催、WEB開催（リアルタイム）、2021.3.14

国内、「呼吸不全の在宅緩和医療とACPの役割」、主催、ハイブリッド開催:WEB開催（リアルタイム）・名古屋大学鶴友会館、2022.3.6

(7) 報告

会田薫子、「子宮移植 —移植医療をめぐる新時代の課題」、千里ライフサイエンス振興財団『Senri LF News』、2021年10月号、p19、2021.10

(8) マスコミ

「わが国の臨床倫理への取り組みはどこまで進んだか —臨床倫理プロジェクトの活動から振り返る（前編）」、『看護管理』、p405-410、医学書院、2020.5.10

「わが国の臨床倫理への取り組みはどこまで進んだか —臨床倫理プロジェクトの活動から振り返る（後編）」、『看護管理』、p495-500、医学書院、2020.6.10

「ALS患者囁託殺人」、共同通信配信、『神戸新聞』、『中日新聞』など地方紙各紙、2020.7.24

「多様な価値認める社会に」、共同通信配信、『信濃毎日新聞』、『長崎新聞』など地方紙各紙、2020.8.3

「患者の「治療をやめたい」への対応法」、『日経メディカル』、2020.8.11

「在宅看取り広がる」、共同通信配信、『岩手日報』、『河北新報』、『福井新聞』など地方紙各紙、2020.9.6

「医療は本人の幸せのため、複眼「死の権利」はあるか」、『日経新聞』、朝刊、8面（オピニオン面）、日本経済新聞社、2020.11.5

「『最終的な治療』は許されるのか ある医師への取材記録」、『NHK NewsWEB』、NHK、2020.12.23

「医療・ケアに必要な倫理の視点 —医療倫理の四原則とは」、『慢性期.com』、日本慢性期医療協会、2021.1.8

「医療を取り巻く倫理の諸課題とその背景にあるもの」、『慢性期.com』、日本慢性期医療協会、2021.1.8

「医療・ケア従事者と患者さんや家族と一緒に考える「共同意思決定」を」、『論座』、『朝日新聞』、2021.2.4

「高齢者が希望する最善の医療およびケアを受けるための倫理的考え方」、『看護管理』、医学書院、2021.2.10

「もしもの時の医療ケアのための話し合い ～ACPとは」、『岡山県民公開医療シンポジウム「共に考えよう 岡山の医療」』、『山陽新聞』、2021.3.28

「終末期医療 看護師に重い負担 横浜の点滴連続中毒死 初公判」、共同通信配信、『静岡新聞』など地方紙、2021.10.2

「高齢腎不全患者に対するSDMの進め方 「透析ヤダ！」では本人の真意を探るべし」、『日経メディカル電子版』、2022.5.18

『高齢腎不全に透析導入せず緩和ケア』の選択肢 — 保存的腎臓療法とは』、『日経メディカル』、2022.5.20

(9) 教科書

『内科学I』、総編集 矢崎義雄・小室一成、分担執筆、朝倉書店、2021

(10) 共同研究

国内、国立研究開発法人日本医療開発機構 (AMED) 研究「長寿・障害総合研究事業 高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」(研究代表者: 日本腎臓学会理事長 柏原直樹氏) (令和元年度~3年度)

国内、国立研究開発法人日本医療開発機構 (AMED) 研究「長寿・障害総合研究事業長寿 呼吸不全に対する在宅緩和医療の指針に関する研究」(研究代表者: 国立長寿医療研究センター在宅医療・地域医療連携推進部長 三浦久幸氏) (令和元年度~3年度)

国内、日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (A) 研究課題名「臨床倫理システムの哲学的展開と超高齢社会への貢献 および医療者養成課程への組み込み」(研究代表者: 岩手保健医療大学臨床倫理センター長 清水哲郎氏) (平成 30 (2018) 年度~令和 3 年度)

国内、日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (B) 研究課題名「認知症高齢者の摂食嚥下障害に対する原因疾患別予防プログラムの多職種共同開発」研究代表者: 北海道医療大学 山田律子氏) (平成 30 年度~令和 3 年度)

国内、日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (C) 研究課題名「小児医療に特化した子どもの権利擁護実践能力を高める教育プログラムの開発と検証」研究代表者: 東京慈恵会医科大学 高橋衣氏) (令和元年~令和 3 年度)

国内、厚生労働科学研究費補助金 研究課題名「療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフ・ケア充実に向けての調査研究—COVID-19 流行の影響も踏まえて」(研究代表者: 国立長寿医療研究センター在宅医療・地域医療連携推進部長 三浦久幸氏) (令和 3 年度~5 (2023) 年度)

国内、埼玉県医師会、「人生の最終段階における医療の選択 —advance care planning」第 2 弾、令和 3 年度

(11) 授業開発・教育プログラム

「臨床倫理 e-learning プログラム」、会田薫子、令和 2 年度

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義

非常勤講師、国立大学法人 長崎大学 歯学部、「長寿時代の臨床死生学」、2020.5

セミナー、一般社団法人 日本老年医学会、「高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2020.8

非常勤講師、国立大学法人 岡山大学歯学部、「長寿時代の臨床死生学」、「アドバンス・ケア・プランニングにフレイルの知見を活かす」、2020.8

特別講演、公益社団法人 大阪府看護協会、「アドバンス・ケア・プランニング —人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援」、2020.9

特別講演、大和市医師会、「多職種のための死生学入門 —アドバンス・ケア・プランニングとは何か」、2020.9

非常勤講師、東京慈恵会医科大学、「臨床倫理 入門編」、2020.9

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、「臨床倫理」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2020.9

特別講演、中外製薬株式会社、「ESRD (末期腎不全) 患者の意思決定支援」、2020.9

特別講演、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2020.9

セミナー、東京慈恵会医科大学、「臨床倫理: 考え方と事例検討法」、2020.10

セミナー、諏訪中央病院・諏訪赤十字病院、「臨床倫理入門編、エンドオブライフの意思決定支援」、2020.10

セミナー、公益社団法人 広島県看護協会、「ACP 研修」、2020.10

特別講演、大曲厚生医療センター、「ACP とは何か —人生の最終段階における意思決定支援」、2020.10

特別講演、第 3 回医療と介護の総合展地域包括ケア EXPO、「高齢者のエンドオブライフ・ケア —ACP の役割」、2020.10

セミナー、公益社団法人 愛媛県看護協会、「なぜ、今、意思決定支援なのか」、「ACP の考え方と実践」、2020.10

特別講演、中外製薬株式会社・山形腎不全研究会、「患者の意思と生命を尊重した腎代替療法選択を考える —納得できる意思決定支援のために」、2020.10

非常勤講師、岩手医科大学、「人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援 —ACP とは何か」、2020.10

特別講演、中外製薬株式会社、「ESRD (末期腎不全) 患者の意思決定支援 —カンファレンスの方法」、2020.10

特別講演、一般社団法人 わライフネット、「人生会議について考える —食べられなくなったらどうしますか?」、2020.10

セミナー、公益社団法人 福島県看護協会、「ACP 一人生の最終段階における意思決定支援、臨床倫理：事例検討の進め方、エンドオブライフ・ケアを考える」、2020.11

特別講演、神戸市兵庫区医師会、「ACP —エンドオブライフの意思決定支援」、2020.11

特別講演、ナースライフバランス研究室、「エンドオブライフ・ケア —ACP の役割」、2020.11

セミナー、一般社団法人 全国老人保健施設協会、「老人保健施設におけるエンドオブライフ・ケア」、2020.12

特別講演、公益財団法人 笹川保健財団、「ACP 一人生の最終段階における意思決定支援、高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2020.12

特別講演、埼玉県南部保健所、「人生会議とエンドオブライフ・ケア」、2020.12

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、「臨床倫理」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2021.1

特別講演、埼玉協同病院、「高齢者が自分らしく生き抜くことを支えるために人生の最終段階の医療とケアについて考える」、2021.2

特別講演、諏訪中央病院、「新型コロナウイルス感染症と ACP」、2021.2

特別講演、諏訪中央病院、「ACP とは 一意思決定支援に求められること」、2021.2

特別講演、公益社団法人 北海道看護協会札幌第一支部、「その人らしさの尊重：その人が主役であり続けるケア —臨床倫理の視点から」、2021.2

特別講演、石川県小松市、「高齢者ケアと意思決定支援—一人生の最終段階を支える文化の創成—」、2021.2

特別講演、岡山県病院協会・岡山県医師会・岡山県、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡がりのなか もしもの時の医療・ケアのための話し合い〜ACP とは〜」、2021.2

セミナー、一般社団法人 日本老年医学会、「高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2021.4

特別講演、NDH ネットワーク、「透析療法における臨床倫理」、2021.5

非常勤講師、国立大学法人 長崎大学歯学部、科目名 「「高齢者歯科学」における「長寿時代の臨床死生学」」、2021.5

講義、東京大学農学部、科目名 「「生命倫理」における「脳死と臓器移植」」、2021.5

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、「臨床倫理」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2021.6

特別講演、一般社団法人 埼玉県医師会、「高齢者に対する ACP 普及の必要性」、2021.6

セミナー、公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会、「臨床倫理」、2021.7

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「アドバンス・ケア・プランニング —人生の最終段階における意思決定支援」、2021.7

セミナー、一般社団法人 日本老年医学会、「高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2021.8

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、「臨床倫理」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2021.8

特別講演、国立大学法人 徳島大学看護リカレントセンター、「在宅療養者が安心して暮らし穏やかな最期を迎えることを支える意思決定支援」、2021.8

非常勤講師、国立大学法人 岡山大学歯学部、「アドバンス・ケア・プランニング —よりよい意思決定支援のために」、「高齢者のエンドオブライフ・ケア —人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2021.8

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「アドバンス・ケア・プランニング —人生の最終段階における意思決定支援」、2021.8

セミナー、公益社団法人 広島県看護協会、「ACP とは何か —一人生の最終段階における意思決定支援」、「臨床倫理：事例検討の進め方」、「エンドオブライフ・ケアを考える」、2021.8

セミナー、北陸地区臨床倫理事例研究会、「エンドオブライフの意思決定支援 —積極的な治療を拒否する高齢患者のケースを題材に」、2021.9

特別講演、岩手医科大学、「人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援 —ACP とは何か」、2021.10

セミナー、諏訪赤十字、「臨床倫理：事例検討の進め方」、「エンドオブライフの意思決定支援 — 積極的な治療を拒否する高齢患者のケースを題材に」、2021.10

セミナー、独立行政法人 国立病院機構中国四国グループ、「臨床倫理の基礎 —看護倫理を現場で活かすために」、「事例検討の進め方」、2021.10

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、「臨床倫理」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2021.10

特別講演、JA 秋田厚生連大曲厚生医療センター、「医療倫理と臨床倫理 入門編」、2021.11

特別講演、保土ヶ谷区、「人生会議（ACP）って何？ 人生の最終段階を幸せなものにするために最期の医療と介護をどうすべきか？」、2021.11

セミナー、公益社団法人 広島県看護協会、「アドバンス・ケア・プランニング —エンドオブライフ・ケアの意思決定支援」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2021.11

セミナー、公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会、「アドバンス・ケア・プランニング —意思決定の支援」、2021.12

セミナー、公益社団法人 福島県看護協会、「アドバンス・ケア・プランニング —エンドオブライフ・ケアの意思決定支援」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2021.12

特別講演、一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会、「アドバンス・ケア・プランニング —臨床倫理にもとづく意思決定支援」、2021.12

セミナー、公益社団法人 大阪府看護協会、「看護倫理」、「臨床倫理」、「事例検討法」、「エンドオブライフ・ケア」、2022.1

特別講演、広島ドナーバンク、「脳死の二重基準の意味と意義」、2022.1

特別講演、諏訪中央病院、「意思決定が困難な患者さんへの意思決定支援を考える」、2022.2

特別講演、世田谷区安心すこやかセンター、「LIFE これからのこと —明日からできる ACP」、2022.2

特別講演、高知県中央西保健所、「一人ひとりの最善をさぐる意思決定支援のあり方 ～高齢期におけるよりよい合意形成とは」、2022.2

セミナー、石川県小松市、「高齢者ケアの意思決定支援 —人生の最終段階を支える文化の創成」、2022.2

特別講演、広島市立広島市民病院、「高齢者における意思決定支援」、2022.2

セミナー、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 長寿科学研究開発事業「高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/ 見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」研究班 (代表:川崎医科大学 柏原直樹)、「アドバンス・ケア・プランニングについて」、2022.2

特別講演、社会医療法人 あさかホスピタル、「ACP (人生会議) とは —人生の最終段階における医療・ケアを考える」、2022.3

(2) 学会

日本生命倫理学会 (2001～)、理事 (2014～2020)、評議員 (2020～現在)

日本医学哲学・倫理学会 (2011～)、評議員 (2013～)、理事 (2016～現在)

一般社団法人 日本老年医学会 (2005年～)、代議員 (2013～)、監事 (2017～現在)

Japan Geriatrics Society *Geriatrics & Gerontology International*, Associate Editor (2020～現在)

日本脳死・脳蘇生学会 (2017～)、理事 (2017～現在)

一般社団法人 日本在宅救急医学会 (2018～)、理事 (2018～現在)

一般社団法人 PEG・在宅医療学会 (2017～)、学術評議員 (2017～現在)

一般社団法人 日本救急医学会 (2006～現在)

一般社団法人 日本透析医学会、倫理委員会外部委員 (2014年～現在)

日本老年社会学会 (2005年～現在)

日本臨床死生学会 (2008年～現在)

一般社団法人 日本呼吸器学会、「非がん性呼吸器疾患 緩和ケア指針」外部評価委員 (2020～2021)

一般社団法人 日本移植学会、「心停止下提供推進委員会」外部委員 (2020～現在)

日本医学会「子宮移植倫理に関する検討委員会」委員 (2019～現在)

(3) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

一般社団法人 日本専門医機構、編集会議 議員 (2019～現在)

公益社団法人 日本看護協会、「看護者の倫理綱領」検討委員会委員 (2018～2020)

NPO 法人 PDN (Patients Doctors Network)、理事 (2007～現在)

静岡県立静岡がんセンター、治験倫理審査委員会委員 (2010～現在)

NPO 法人 生活介護ネットワーク、理事 (2010～2021)